

各委員会 視察報告

議会運営委員会

7月24日～25日

議会改革の取組み (滋賀県長浜市、岐阜 県可児市)

いずれも議会改革度調査ランキングで上位に位置する議会である。近年、はやり言葉のように言われる議会改革の始まりは、北海道夕張市の破綻で、議会が監視機能を果たせなかったことを受け、襟を正そうと隣の栗山町議会が2006年に制定した議会基本条例。議会改革の柱として全国各地の議会が制定をしている。

長浜市、可児市両市とも、議会基本条例に掲げる内容を検証し、議会のあるべき姿を追求している。それぞれ強く注力されている分野には違いがあるが、共通していることは、議会基本条例制定後、実施検証に当たっては大学研究者との連携や研究会などへの出席を通し、さらなる議



議会改革の先進的な取組みを聴く（滋賀県長浜市）

会改革を推進しているということである。また、二元代表制を強く意識し、議会と執行部との立場を明確にし、市・市民に関する課題・問題に対し、執行部とは別に議会独自の市民の要望・意見を聴く活動を行っている。執行部とのなれ合いを廃して議会の役割を再定義し、公開度を上げて説明責任を果たすなど、活性化のための運営ルールを定めることが重要である。議会と市民との距離感を無くすることが、最大の議会改革であると感じた視察であった。

建設経済委員会 7月26日(水)

ふたつの再生可能エネルギー

木質バイオマス発電所(兵庫県朝来市)

昨年12月に稼働したばかりの施設である。再生可能エネルギー固定価格買取制度を活用した木質バイオマス発電は、これまで利用されずに放置されていた間伐材等を「発電用燃料」として利用することで、災害防止と、木材価格の下支えとともに新たな収益を生み出すことで林業経営の安定化にもつながるとして、平成24年勉強会からスタートして稼働したものである。

広い敷地には、県内各地から運び込まれた木材が積まれ、見慣れない重機が動き回っていた。20年間の固定価格で木材は1トン6,700円、発電を通して林業の安定化を図るという目標が伝わる事業であり、また近年若者が、林業に多く働くようになったと聞き、二重に嬉しい視察であった。

小水力発電所(兵庫県三木市)

ダムから、計画的に放出される水を利用しており、設備を設置すれば、燃料費のいらない発電所であり、日本の地形に合った再生エネルギーだと再認識した視察であった。



発電の燃料に使われるチップの山(兵庫県朝来市)

文教民生委員会 6月30日(金)

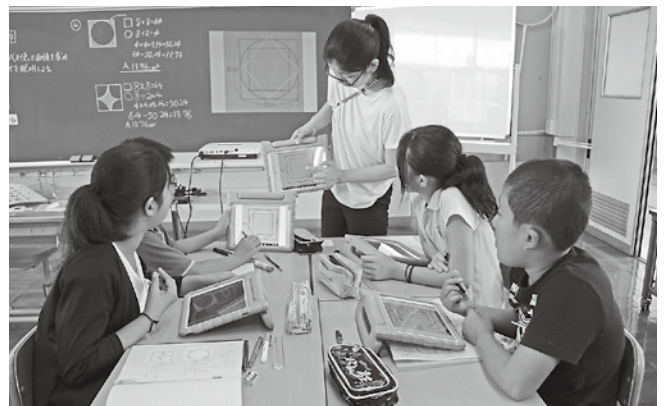
ICTを活用した教育の現状

豊岡市立港東小学校 6年生

ICT機器を活用した、6年生の算数の授業「円の中の図形の面積の求め方を考える」を視察した。

先生が問題の図をスクリーンに表示し、その図がすぐに各児童のタブレットに送られる。児童はまずタブレットでどのように面積を出すのかを各自考え、タブレット上にペンで書きこみ、代表の児童のタブレットの内容をスクリーンに表示させ発表させる。児童が自分の考えを改めて黒板やホワイトボードに書く時間も短縮され、スムーズに授業が展開。児童たちは集中し、先生と児童とのコミュニケーションもしっかりできており、ICT活用によるコミュニケーション不足の心配などはまったく感じられなかった。

児童が課題について考える時間や発表について話し合う時間が長くとれていることは、ICT機器をツールとして活用している効果であると実感した。児童もいきいきと授業を受けていた。今後、さらに効果的なICT活用を期待する。



タブレットを活用した授業

市民団体との懇談会・意見交換会を開催しました！



各地域から集まった15名のお母さんとの懇談会（アイティ7F）

文教民生委員会 7月5日(水)

子育て世代との懇談会

子育て世代との懇談会を開催した。

子育て真っ最中のお母さんたちから日頃感じている「子育て」に関する率直な生の声を聴くことができた。

懇談会中は、お子さんを同じアイティ7階で一時保育。ゆったりとした気持ちで、初めて会ったお母さんたちとの意見交換をすることができた。

本年度からの新しい市の取組みである「ファミリー・サポート・センター事業」と「おやこ支援室」の具体的な事例などを議員が説明。

その後のワークショップでは、さまざまな観点から子育ての悩みや、議会に対しての要望を聞くことができた。

建設経済委員会 6月29日(木)

豊岡鞆協会との懇談会

鞆協会との懇談会を開催した。豊岡市の特産業であり、昨年出荷額が日本一の産地となった業界の鞆生産の歴史、時代の波に突き動かされながら、グローバル化の下、生産を海外に求めた企業の苦労、業界の再編などを経た近年の鞆生産・販売の動向、さらに人材確保など当面する業界のもつ問題などが語られ、課題意識の共有化を図る有意義な懇談となった。



昨年出荷額日本一の豊岡鞆協会との懇談会（豊岡市役所7F）



商工団体との懇談会（豊岡市役所7F）

豊岡商工会議所・

豊岡商工会との懇談会

6月30日(金)

商工会議所ならびに商工会との懇談会を開催した。それぞれの組織の現状や課題の報告があった。特に小売商業は、量販店やチェーン店の進出、後継者不足、事業主の高齢化などで廃業を余儀なくされているなどの意見があった。商店街の維持が困難なことや、商工会議所、商工会の組織率が後退していることなどは委員会としても共通の課題だと痛感した。

議会広報特別委員会 「第30回近畿市町村広報紙セミナー」に初参加!! 7月25日~26日

▼大阪市内で開催された「第30回近畿市町村広報紙セミナー」に、委員会委員2名と事務局を加えた3名が派遣され、広報紙作成のノウハウを学んだ。

▼このセミナー受講は、毎年行われている「近畿市町村広報紙コンクール」に参加するために必要な条件でもあり、今議会だより62号を豊岡市議会として初めて応募する予定である。この取組みにより、第三者の目による客観的な評価を受け、今後の紙面づくりに生かしたいと考えている。

▼両日は、近畿一円から80の地方公共団体の114名もの広報担当者等が参加。講師は、現役の新聞編集責任者などのプロ。市民に読んでもらえる広報紙をどう作るのか等の講義を受講した。編集理念に始まり、特集記事の作り方、校正のテクニック、市民の心をつかむ表紙写真など、多くの具体的なポイントを学ぶことができた。

特に「読む義務は市民側にはない!」という言葉を通して、いかに親しみをもって手に取ってもらえる広報を作るか、大変参考になった。来年も引き続き委員会として参加するべきだと強く感じた。



読み手に届く文章の書き方について学ぶ（毎日インテシオビル）